浸潤型中耳真菌症の一例

真田朋昌　兵頭　純　羽藤直人　比野平恭之　暁　清文
愛媛大学耳鼻咽喉科

真菌感染症は外耳道や副鼻腔ではしばしば経験されるが，中耳に浸潤型真菌症として進展する症例は稀である．コントロール不良の糖尿病に合併し，顎関節周囲，頭蓋底にまで真菌の浸潤がみられた難治の中耳真菌症例を経験したので報告する．症例は 63 歳，男性．主訴は左耳前部腫脹と圧痛．2007 年 9 月に前医受診．真菌症を疑い，抗真菌剤投与と乳様突起削開術を施行したところ症状の軽快を認めたが，投薬中止後，左耳前部腫脹，圧痛，開口障害が出現，CT，MRI にて顎関節窩，頭蓋底部の骨破壊を認め，浸潤型真菌症の診断にて，2008 年 3 月 26 日当科を紹介され受診した．

既往歴：２型糖尿病

経過：2008 年 3 月 26 日入院後，ブイフェンドの点滴投与を開始した．既往に糖尿病があったため，厳格な血糖管理を行なった．４月８日根治的乳突削開術，顎関節部開放術を施行した．症状改善を認め，ブイフェンドを内服に変更し，５月 13 日退院した．以降，外来にて経過観察中であるが，局所の真菌像，症状の再燃は認めていない．

考察：本症例は血液検査にてアスペルギルス抗体価陽性であったため，中耳アスペルギルス真菌症と診断した．感染経路は経耳管感染が最も考えられた．治療では，手術と薬物療法を併用が有用であったが，コントロール不良の糖尿病に対し，厳格な血糖コントロールを行なったことも，良好な転帰が得られた一因と考察した．